



VOL. 132

15年 11月 ~ 12月

今月の特集

私の履歴

34



私の履歴 34 私のイトウ釣り③

いよいよ最終日です。ガイドS君のもう一つのとおきのポイントであるサロベツ原野を流れるサロベツ川に向かうことにしました。出発直前に、稚内の近くの海岸で海アメ(海に降海したイワナのことで、北海道のイワナはアメマスと称されているので海アメと呼ばれています)が釣れているとの情報が地元のフライフィッシャーの人から入り、猿払からサロベツ川に向かう途中にちょっとその海岸に寄り道してからサロベツ川に向かうことになりました。海岸についてみるとすでに地元の釣り人たちの車がすでに4台ほど駐車場に入っていました。情報をもったポイントまでは駐車場からかなり遠く、片道20分以上は砂浜を歩かなくてはなりません。歩くのが面倒だったので駐車場からすぐの海岸で釣ってみました。ふと目をやると情報をもった場所付近で地元釣り師が急に爆釣し始めたのが目に入ったので、私も砂浜に足をとられながら必死にその場に急行したことは言うまでもありません。彼らのそばに寄ってみるとそこは少し岩場になっていて、確かに彼らは海アメを爆釣しています。私も彼らのすこし先の岩場に入って釣りを開始しました。しかし、彼らは釣れるのに私には釣れるどころかアタリも来ないのです。そんな状況が15分くらい続いたでしょうか?40メートルくらい先の海上にブイのようなものが見えるではありませんか!時々沈んだり動いたりするように思ってよく見るとそれはブイではなく、アザラシであることが判明しました。アザラシが私たちの真正面の海上にいて、こちらを見物しているようでした。アザラシがいると魚は食べられることを恐れて周辺から逃げてしまうのは釣りの常識です。「これは最悪ですよ!」とS君がため息をつきました。私たちのすぐ左で釣っている二人の地元釣り師たちは相変わらず爆釣しています。私たちはアザラシのことを彼らに話して今度は彼らの左で釣らしてもらえないかとお願ひし、場所替えをさせて貰いました。するとなんと2投目に今までまったく無反応だったフライに、生まれて初めての海アメがかかったのです。川のイワナは比較的のんびりした引きですが、海アメはかかると同時に上下左右にきびきびしたファイトを見せるので最初はちょっと戸惑いました。それでもうまくネットに入れることができました。昨日のイトウほどではなかったけれど、これも大変うれしかったのをよく覚えています。それからは私にも爆釣の時が訪れました。立て続けに4匹が釣れたのです。そのうち1匹は55cm位で丸々と太ったギンケした立派な魚でした。「これは茨城の管理釣り場よりもつれるじゃないか!素晴らしい!!」と思いました。しかし、いいことは長くは続きません。今度は60cmオーバーを狙うぞとさらに気合を入れてキャストを繰り返しましたが、15分くらいで海アメの群れが去ってしまったようで、それからはまたもとの無反応の状態に戻ってしまったのでした。「もう爆釣時間は終了かよ?早すぎるだろ!アザラシのせいだ!残念…」あの時左横に快く入れてくれた地元釣り師の人たち、どうもありがとう。あの一瞬の入れ食いは本当に夢のようでした。地元の釣り師もさすがに爆釣時間が終わったために帰ってしまったので、我々もその場を後にしてサロベツ川に向かいました。サロベツ川も前日のモケウニ沼と同じくらい雰囲気のある場所で、イトウのライズもみられて釣れそうな気がして何回も夢中でキャストを繰り返しました。しかし、そうそう幸運が続くはずもなく、残念ながらアタリはありませんでした。1時間くらいして根がかりのために糸が切れてフライラインのシューティングヘッドごと失ってしまいました。今回の遠征は大変釣果に恵まれて本当に幸運だったなと満足して納竿することにして道北の釣りを終えたのです。



釣りのガイドの仕事を見ていると医者に似ているところがたくさんあるなと思います。我々が患者さんを励ますようにガイドも釣りを励ましたり、必要な修正点を指摘したり、投げる方向やポイント指示してくれたりします。ガイドによってその日の釣りが楽しくなったり、そうでなくなったりすることも多々あります。私もみなさんの良きフィッシングガイドになりたいと思っています。また以前にもこの新聞に載せたことがあります。私はフィッシングガイドの人たちをリスペクトしています。フィッシングガイドという職業を選ぶということは、他人だったり世間だったり用意したルールから外れて自分が納得して自分の人生の軌道を歩こうとする強い意志を感じるのです。そこには人生に対する潔さのようなものを感じずにはいられません。少なくとも私の知っているフィッシングガイド達は性格はそれぞれ違っていますがいずれもナイスガイで、彼らとバカ話や釣りの話、人生についての話をする事自体が、私にとって楽しいし有意義な時間となって楽しんでいることを強く感じています。(次号へ続く)

糖尿病で失明しないために 糖尿病療養指導士 亀田御旨

糖尿病合併症の一つに糖尿病網膜症があり、失明することが決して希ではありません。どうか皆さんも最低でも1年に1回は眼科の検査を受けましょう。糖尿病網膜症の分類は進行の程度により大きく3段階に分けられます。

1 単純糖尿病網膜症

初期の糖尿病網膜症です。細い血管の壁が盛り上がりできる血管瘤や小さい出血が見られます。この時期にきちんと治療すれば失明に至ることはあまりありませんが、黄斑浮腫(たんぱくや脂肪が血管から漏れて、視力を出すために重要な場所である黄斑部がむくんでしまう)が起きると視力低下をきたすことがあります。

2 前増殖糖尿病網膜症

単純網膜症より一歩進行した状態です。細い網膜血管が広範囲に閉塞をおこしている状態です。網膜に酸素が行きわたらない状態を放置すると未熟な細い血管が網膜に出現するので、この時期にはレーザー光線で網膜の弱った場所を焼く光凝固療法が施行されます。

3 増殖糖尿病網膜症

さらに進行すると、網膜に増殖膜というかさぶたのような組織が形成され、それが原因で網膜の一部が剥離を起こしてきて失明の原因になります。この時期には焼死体手術という、増殖膜を切り取る手術が行われます。以前に比べて格段に手術の成功率は上がってきていますが、難手術であることに変わりはありません。



休診のお知らせ

11月～1月の診療予定です。宜しく御了承ください。

11月	S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12月	S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
1月	S	M	T	W	T	F	S
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30